

「平成29年度総務文教常任委員会政務調査」

委員名 長谷川幹雄

視察実施日

平成29年8月22日(火)9:30~

視察先<佐用町>

【調査目的】

- ・協働のまちづくりについて
 - ・まちづくり基本条例について
 - ・まちづくり推進会議について
 - ・学校等跡地施設利活用について

【所感】

佐用町は、人口17,505人、世帯数6,902世帯（平成28年4月現在）面積は307.44km²の中山間地域で、林野率が81.0%という平地の少ない地域である。平成17年10月1日に4町が合併して佐用町が誕生した。佐用郡旧4町合併協議会に於いて、過疎化・少子高齢化・地域力の減少や財政危機等早急に対応すべき課題の中で、協働のまちづくりを基本として推進することになったようである。何よりも、住民が主体となりまちづくりを推進し、住民と行政が役割や責任を分担し双方が協力しあう協働のまちづくりに邁進している。まちづくり基本条例により、住民・行政の権限や責務を明確にしているところが凄いと思う。行政任せではなく、小学校区単位の地域づくり協議会や全町単位のまちづくり推進会議を発足させて、地域づくり協議会には地域づくりセンター長が、推進役となりまちづくりを推進している。

学校等跡地施設利活用に関しても、思った以上に推進出来ていたのが驚きでした。ここでも住民の意見を聞いて取り入れ、10年間無償で業者等に貸し付けをしている。あくまでも住民本位としている点が凄いと思いました。

議会としても、3千万円の助成に対して、しっかりチェックをしているし、議員の中には協議会の役員等何らかのかたちに関わりをもって取り組んでいるとの報告を受けました。

職員さんから数々の説明を受けるなかで、この取り組みに対して、なんとかこのまちを活性化したい、持続したいとの思いが伝わってきました。

【感想】

今回の視察を通して、今後加東市も直面するはずの、まちづくりに対して又公共施設適正配置計画で、どのようにして取り組むのか、加東市をどう発展させていくのか、今から推進会議をどんどん進めていかなければならない時期に来ていると感じました。合併 11 年目、1 年早く合併した佐用町と比較すると、断然遅れているのが加東市であると思う。行政が何とかしてくれるであろうとの考えを持っている市民の方々は改めなければいけないと感じたのは私だけでしょうか。議会としても、どんどんアイデアを出し行政・市民と一体となって推し進めていくのがまちづくりであると考えます。伸びる要素のある加東市であるから今後が楽しみであり、又責任重大であると思っています。

視察先<宍粟市>

【調査目的】

・地域公共交通総合連携計画と公共交通再編計画について

【所感】

平成 17 年 4 月 1 日に旧 4 町が合併して宍粟市になり、人口 39,050 人、世帯数 14,541 世帯（平成 29 年 4 月 1 日現在）面積は、658.54 km²で林野率が 90%以上である。谷あいの集落が数多くあり、外出支援サービスの見直しをきっかけに平成 27 年 11 月 2 日に公共交通再編をおこなっている。幹線 3 から 4 本、支線 6 から 25 路線へ変更し、バスを乗り継いでも 200 円で目的地まで移動できる。

京都府京丹後市も 200 円バスを運行しているが、右肩上がりで、利用者が増加しているところもあるので、今後に期待が持てる気がしています。

路線の見直し基準を設けて、基準を下回ると減便・廃止することもありえるとして、地域住民の役割を明確化してバス乗車を推進している。学生が多く乗車するようになったとお聞きした。バス運賃が 200 円になったからだと思う。

これからの課題として。バスに乗る習慣、交流人口増加を目指した土日運行やフリー乗降ゾーンの導入等である。循環バスの社会実験運行を行っている。

【感想】

この手法を加東市に当てはめた場合どうだろうか、市内を循環型バスとし、郊外を小型バスで運行すれば 1 回の乗り継ぎで自由に行きたいところに行けそうな気がします。要はやる気があるのかどうかだと思われれます。

社会実験運行として、まずは走らせてみるのもいいと思います。一番遅れているのが、公共交通だと思うので早期にまず実験運行を期待します。

【その他 政務調査について】

・公共交通の先進地視察

・

「平成29年度総務文教常任委員会政務調査」

委員名 藤浦 巧

視察実施日 平成29年8月22日（火）

視察先 <佐用町>

【調査目的】

- (1) 協働のまちづくりについて
 - まちづくり協議会条例について
 - 佐用町まちづくり推進協議会について

【所感】

まちづくり協議会条例については、きめ細かく整備されており当市においても早急に整備すべきと考える。

推進協議会については、13か所の協議会を設置されている。当市においても小学校校区で設置されており設置基準は同じ考え方であると思う。しかし、活動内容については、相当積極的に取り組まれているように感じた。

【感想】

人口規模の違い（当市の約半分）、また、純農村の形態が色濃く残っている地域のように感じた。そのため組織力の強さがあり、事業の運営がやりやすいように感じる。

「平成29年度総務文教常任委員会政務調査」

委員名 藤浦 巧

視察実施日 平成29年8月22日（火）

視察先 <宍粟市>

【調査目的】

（1）地域公共交通総合連携計画と公共交通再編計画について

【所感】

宍粟市の公共交通の考え方は各地域にあったきめ細かい交通形態が組み立てられている。

全地域を網羅しており、また、地域の実態、要望等を取り入れる等利用しやすい状況に思えた、

運賃も一律200円と廉価であり市民にとっては利用しやすいと思う。

事業費についても29年度で184百万円の多額の補助金を出しており、実質は国、県等の補助を差し引くと約4千万円程度あるとのことであったが市の公共交通にかける熱意には感心した。

【感想】

市域が当市の約4倍強であり、市役所、病院等の公共施設、また、買い物ができる市街地までの距離が相当あり、最も必要な施策であるため首長をはじめ職員がこの問題に取り組まれていると感じた。

「平成29年度総務文教常任委員会政務調査」

委員名 山本通廣

視察実施日

平成29年8月22日(火)

視察先<佐用町>

【調査目的】

学校等跡地施設新築利用について。

【所感】

学校と併せて中学校跡地利用として、最も電気買取り価格の高小時(42円)より早く太陽光発電所を、更に次世代農業を促進する取り組みとして、施設を稼働と始めていこうとしていることから、正念場、成功に向けて応援したい。

【感想】

加東市小中一貫校の特徴として、跡地を廃校として小学校の跡地として活用する点、過去には跡地を売却して経営悪化が全体的に広がっていたが、積極的に跡地を、経済的に追求する点、加東市においては跡地の活用に関する取り組みが、平成29年度第2次総合計画の中で、市として構成される播磨園地連携中核都市圏構想がある。加東市は、定住自立圏構想として、如何。